

令和6年7月17日(水)

愛知教育文化振興会

協力:岡崎女子大・短大

ネイチャーウォッチングだより

7月14日(日)、厚い雲が空を覆って雨も心配される中、岡崎市少年自然の家を会場に、本年度Aグループ第1回のネイチャーウォッチング「めざせ 虫博士」を開催しました。25組の親子 85名が参加し、昆虫のことを改めて学び、実際にトンボやバッタなどの昆虫採集を体験しました。



トンボのお話をされる鈴木

講師は、日本昆虫学会の鈴木栄二先生です。昆虫の特徴や網や仕掛けを使ってトンボなどを捕まえる方法を学びました。「地球上の生物の中で昆虫の種類が最も多いのです。昆虫の中でも甲虫と呼ばれるカブトムシの仲間がいちばん多いのです」「トンボを網に入れたら、羽を触らずに尾っぽをつかんで虫かごに入れてください」など、わかりやすく教えていただきました。先生の作られた昆虫標本の一部が展示され、採集への意欲が高まりました。



鈴木先生がつくられた昆虫標本



なんていうトンボかなあ

講話の後は、いよいよ野外での昆虫採集体験です。雨の心配もなくなり、時折薄日が差して

蒸し暑いほどでした。それでも子どもたちは思い思いに草原や「ヘイケの沼」周辺でトンボやバッタを採集しました。たくさん見られたのは、先生のお話

にも出てきたウスバキトンボです。空を飛び回っていて、なかなか捕まりません。池の周囲

には赤い色が目立つショウジョウトンボ、オスとメスで色が違うオオシオカラトンボ、小

型で黄色のキイトトンボや、まさにその名のと通りのモノサシトンボが観察できました。そして、しだいに網の使い方に慣れてきたのか、トンボを捕まえて喜ぶ親子が増え、教わった方法で網をつまみ上げ、尾っぽを持って虫かごに入れ、トンボの姿を確かめていました。



鈴木先生に尋ねる親子

昆虫採集体験の時間が終わると、捕まえたトンボやバッタは惜しみつ

つ自然に返しました。「家で教わった仕掛けを作って、クワガタが捕まえられるかどうか試してみたい」という声も聞こえてきました。今回の体験が子どもたちの今後の自然体験につながれば幸いです。

最後に、ご協力いただいたアンケートから感想の一部を紹介します。

トンボの持ち方が分かってよかったです。羽を持つとトンボを傷つけてしまうこともわかってよかったです。(子) 虫の種類に合わせた網の使い方を教えていただいて、これからの昆虫採集がますます楽しみになりました。(母)

虫取りが楽しかった。(子) 思ったよりトンボを捕まえることができ、楽しかった(子) 昆虫についてのお話、わかりやすく楽しかったです。(母) 最初の講義もよかったですし、採った虫について説明してくれたのもよかったです。(父)

ショウジョウトンボ、ナツアカネ、名前がわからなかった青いトンボの3匹を捕まえることができ楽しかった。(子) 虫の名前の由来や虫の取り方などを学ぶ講座があり、子どもだけでなく親世代の学びにも繋がり、楽しく参加することができました。子以上に親が楽しんでいただけたかもしれません。次の講義も楽しみです。ありがとうございました。(母)



「めざせ虫博士」に参加された皆さん